

学術情報メディアセンター

I	研究水準	研究 31-2
II	質の向上度	研究 31-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当りの論文誌掲載論文数は1.45件、国際会議論文は2.12件、さらに、著書が0.27件であり、活発に研究活動がなされている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は平成19年度教員一名当たり0.93件で300万円強を受けている。その他の公的研究費0.37件で600万円強、共同研究・受託研究、寄附金0.81件で170万円弱であり、競争的研究資金として教員一名当たり1,000万円を超える額を獲得しており、活発に研究活動が進められていることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、スーパーコンピュータ共同利用・共同研究については、計算機ジョブ件数は減少したものの、その稼働率はノードで72%、CPUで82%となっており、十分に利用されている。共同研究については、一般公募、指名公募とも優れたテーマが多く見られる。コンテンツ作成に関しては多くのサービスが提供されている。全国共同利用センターとしてデジタルコンテンツ作成の共同研究を目標にあげており、他の大学にない特徴であることなどは優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、学術情報メディアセンターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、学術情報メディアセンターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究成果として、例えば、近似アルゴリズムに関する研究、学際共同研究による人工先物市場システムに関する研究が挙げられる。スーパーコンピュータ共同利用の支援の成果としては、地球磁気学、物理学、医学等の分野で成果を上げており、特に、ナノ領域への光閉じ込めに関しては、高く評価できる。社会、経済、文化面では、優れた成果として、教材育成支援等がある。これらの状

況等は、相応な成果である。

以上の点について、学術情報メディアセンターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、学術情報メディアセンターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。